

資料 4

令和 6 年 1 0 月 1 日

東久留米市地域自立支援協議会委員 各位

青年・成人期の余暇活動調査部会

中央区かえで学級視察報告書 (青年・成人期の余暇活動についての研究)

標記の視察について、下記のとおりご報告いたします。

記

1. 日 時：令和 6 年 8 月 11 日 午前 10 時～12 時
2. 場 所：築地社会教育会館（東京都中央区築地 4 丁目 15-1）
3. 視察者：青年・成人期の余暇活動調査部会員（河野委員、畠山管理係長、
北原地域支援係長、太田生涯学習係長）、村山会長、飯田課長
※斎藤委員は当日講師として登壇。
4. 視察対象：中央区かえで学級（担当者：中央区生涯学習課 小林氏 安西氏）

5. 中央区かえで学級の概要

昭和 45 年に知的障害のある方を対象に、社会の中で自立して生きていく力を身につけることを目的として中央区が開設し、現在も学級生を募集している。

調理実習や施設見学のほか、華道・手芸・運動部に分かれての学習、電車ハイク、宿泊研修会などを行っている。

また、他区の学級と合同レクリエーションなどの交流も行っており、さまざまな学習機会を提供している。

・対象

原則 15 歳以上（中学生を除く）の知的障害のある方で、中央区の特別支援学級（心身障害学級）の卒業生、または区内在住・在勤の方、自身で通える方

資料 4

・活動日時

年間 19 回 21 日（うち 2 回は宿泊）、 第二、第四日曜日

午前 9 時 30 分から午後 3 時 30 分まで

・参加費用

無料（ただし、活動に関する実費（交通費、調理の食材費や華道部のお花代など）については本人負担）

・会場

主に銀座中学校（視察時は銀座中学校が改修工事中のため築地社会教育会館で実施）

・かえで学級の学習内容

主に以下の 4 つの学習活動を実施。

① 全体学習、学級生全員が集まって、活動する学習。

- 開閉級式…一年の初めと終わりに行う式典。
- 校外学習…公共交通機関を使い遠足。
- 宿泊研修会…伊豆高原荘にて 1 泊 2 日の宿泊研修。
- レクリエーション…軽い運動、ゲームを実施。
- 柏学園合宿…柏学園にて 1 泊 2 日の宿泊研修。
- 四区青年学級連合レクリエーション大会…千代田・中央・墨田・江東の四区と合同で、レクリエーションを実施
- 新年会…かるたやトランプなどのレクリエーションを実施

② グループ学習、各学級生の年齢・状況等から、3 つの班に分かれて様々な活動をします。

- 調理実習…一人で料理ができるようになることを目標に、食材の買い出しから後片付けまで行う。
- 学習…栄養やお金の学習。
- 施設見学…さまざまな施設を見学。

③ 部活動、華道部・手芸部・運動部の 3 つの活動から 1 つを選び、活動。

- 華道部、季節に合ったお花を使い生け花をする。
- 手芸部、スウェーデン刺繍を中心にポーチやクッションなど製作。
- 運動部、水泳やキックベースを中心に活動。

④ 選択グループ学習

以下の 3 つの学習活動を実施

- 美術館めぐり…美術館の企画展などを見学。
- ウォーキング…中央区内や皇居周辺などをウォーキングして身体を動かす。
- 音楽…CDに合わせて合唱や演奏を行う。

6. 聞取り内容

(1) 予算について

- ・予算規模は 750 万円のうち 580 万円程度は報償費となっている。
 - ・会場の利用料は減免。無料で使用している。
 - ・スタッフは
専任講師 日当 19,000 円（区の講座の基準）
科目講師 日当 17,000 円
助手 日当 6,000 円
- で構成されており、労働の対価ではなくボランティア活動に対して謝金を支払っている。
- ・補助金の活用はしておらず、一般財源で実施している。

(2) 利用者について

- ・利用者の参加のきっかけとしては、銀座中学校にある特別支援学級からの参加、区内在住、在勤で、かえで学級を知って参加するなどが主である。障害福祉サービスを利用しているかは人による。
- ・区外の利用者の中には市部（例：町田市）や都外（例：市川市）から参加する方もいた。居住地にも類似の取り組みはあるが、学校卒業者としてなじみがあり、知り合いもいるかえで学級に参加しているようである。
- ・毎年利用申請を行っており、長期不参加の利用者について、次年度も継続できるかを確認しているため、所属しているだけの方はいない。
- ・休む場合は前日までに連絡するよう利用者に伝えている。基本的に自分でできることはしてもらい、という考え方。連絡なく不参加の場合は本人に連絡を行う。
- ・午前中の未参加、午後の早退等利用者が自分の体調を考慮して利用することも可能。
- ・現在は 1 年間に 2 名程度が新規で参加している。
- ・入会希望者は必ず見学をし、自身で通えるかを判断する。

(3) 講師について

- ・スタッフはあくまで学習支援であり、介助は行わない。資格要件もない（支援経験のある方がたまたまいることはあるが、運営上必須とはしていない。生涯学習が主眼）。
- ・かえで学級のグループ活動は 3 班体制で行っており、4 月にスタッフの異動と、障害の程度や特性等で班分けを行っている。
- ・専任講師 8 名 65 歳まで
助手 70 歳まで

資料 4

- ・専任講師は基本的に毎回参加（当日は1名欠席で7名で運営）、科目講師と助手は区の担当2人で、毎回シフトを割り振っている。
- ・利用者高齢化と男性スタッフの不足が問題となっている。
- ・ボランティアスタッフは、ボランティアサークルや大学の障害福祉の授業に参加している学生に声をかけお願いすることもある。
- ・学生ボランティアは、就学中は活動してもらえが就労を機に辞めるという課題がある。活動を再開してくれる方も就職の時期から3年間程度空白期間ができてしまう。

（4）講座内容、運営について

- ・カリキュラムは年間のスケジュール案を区の担当から専任講師に提示し、会議を行って決める。
- ・区の職員が毎回参加している（職員1名、会計年度任用職員1名）
- ・グループ活動については開校式の日に自己紹介の後に利用者が話し合っ決めて決める。
- ・活動は週末のみ、平日の活動はなく、要望もない。
- ・専任講師のミーティングは4月と宿泊の際に実施、宿泊には課長、係長も参加する。
- ・宿泊行事についてはおおむね利用者5～6人に対してスタッフ1人くらいの割合になる。泊りで参加できるスタッフが少なく、同性スタッフが少ない、見守りに限度があるなどの課題がある。結果、スタッフも同じ部屋で休むような感じ。
- ・宿泊など大きなイベントを除いて、通常の学級の運営は2人（小林氏・安西氏）で行っている。
- ・調理実習は保存のできる調味料（塩、しょうゆ等）は区で購入し学校の冷蔵庫で保管、その他の材料費は自己負担としている。実習内容は復習のため二度同じメニューとしている。自身で調理する機会が少なくなっているが、調理の方法を習得することだけが目的ではなく、何を食えば健康によいか学習することも目的としている。
- ・以前は近隣のスーパーに行き、一緒に買い物をするのも金銭管理など学習の一環として行っていたが、築地の会場周辺に適したスーパーがなく、猛暑でもあることから直近はスタッフが買い出しに行っている。
- ・調理実習は6人の利用者に対し5人のスタッフが補助を行っている。
- ・お金の使い方の講座は講師が行い、身近なお金の管理や家計簿のつけ方などを学ぶが、キャッシュレスへの対応など新しい課題もある。
- ・部活動では中央区のスポート推進委員が指導を行う。
- ・午前に班別活動を行い午後に部活動を行う（年間7日）終日班別学習を行う日がある。
- ・利用者のアンケートでは部活動でバスケットボールやサッカーを行いたいとの希望が多いが、利用者の高齢化やできることの個人差が大きいため、パラスポーツへ移行している。
- ・課外学習は銀座中学校（拠点）で集合と解散をする。（現地集合と解散が可能な方は別）
- ・就業者が多く在籍しているため回数を増やす要望や、イベントも含め平日の開催の希望は

少ない。

- ・オープン学級を8月25日に実施する。活動を知っていただく見学の機会であり、登録していない方も参加が可能。

(5) 視察当日の様子

視察当日のカリキュラムは、A 調理、B 暑中見舞い作成、C パラリンピックについての講義

A 調理 (利用者6人 講師・スタッフあわせて5人 調理室)

- ・利用者2人程度で3つのグループに分かれて、それぞれ調理スペースを利用。チンジャオロースとごはん、杏仁豆腐を作っていた。材料を切り、味付け(合わせ調味料)、具材を炒め、盛り付けるところまでを行っていた。

利用者は講師の「次は〇〇をしますよー」という呼びかけに答えつつ、自分の意志でお皿を取ってきたり、いすを並べるなど、和やかな雰囲気の中で調理に取り組んでいた。福祉的な支援を行っている様子は見る限り伺えなかった。区の職員とも顔見知りのようで、かかわり方がうかがえた。なお利用者は比較的自立度が高く活発な組であるとのことである。

B 暑中見舞い作成 (利用者10名弱 講師・スタッフあわせて5人 2階第1洋室)

- ・利用者1～2名で長机に座り、A3程度の大きな紙に文字を書いていた。スタッフは見回りしながら書き方を教えたり話し相手になったりしていた模様。基本的に落ち着いた作業が好きな方が揃った組で、時々声が上がるものの、皆さん課題に取り組んでいた。Aと同様、福祉的な支援を行っている様子は見る限り伺えなかった。

C パラリンピック (利用者7-8名程度 講師・スタッフあわせて5人程度 2階講習室)

- ・利用者のみ、もしくは利用者と講師がBと同様長机ですわり、斎藤講師のパワーポイントを交えた講義を聞く形式であった。見学時の内容は「開会式の出場国の入場順」であり、最初がオリンピックの生まれたギリシャであることを話しながら、ではギリシャで開催された場合はどうするでしょう、と利用者に聞いていた。

利用者は積極的に手を挙げており、関心は高いように見受けられた。また、利用者は座って話を聞く、メモを取るなど何らかの形で参加していた。内容、利用者の姿勢ともに、障害者支援の事業というより、生涯学習のプログラムとして多くの方に有益な内容と見受けられた。